

家内工業に於ける衛生管理に就て

愛知学芸大学 奥山 静

労働によって飛散する塵埃が健康に極めて有害な作用を及ぼす事は周知の如くであり、この見解は古くから考慮されて来たが、家内工業に関しては未だ種々の問題が蔵されて居る。今回は此の点に着眼し、西三河地方の特殊産業である“ガス紡績”を家内工業とする家庭と其の附属工場に於ける発塵が如何なる条件に支配されるかを、1日の時間経過と工場作業との関係について、同一工場内での部位的な差異について、人の動きの多少に依る差異についてみ、之に衛生的見地より考察を加えた。其の結果発塵量は機械の動きと作業時間の積算との二つの事に関係しあと人のうごき、人数の多少其の他には余

り関係せず、唯工場内の部位に依って同じ日の同じ時間でも発塵量の対絶対値が大いに異っている。之は機械からの距離と、窓に依る気流等の影響によるものと思われる。